

## Ⅲ-3 防護用具の使用

### 1 使用の目的

- (1) 湿性生体物質による医療者の身体・衣類の汚染を予防する。
- (2) 清潔処置時、医療者の持っている微生物による清潔野の汚染を予防する。
- (3) 有害な薬剤から医療者の身体を守る。

### 2 使用時の注意事項

- (1) 防護用具は湿性生体物質に曝露することが考えられる際に、必要な物を使用する。
- (2) 防護用具を装着する直前に手指衛生を行う。
- (3) 全病室の入口に防護用具を設置し、防護用具が使用しやすい環境を整える。
- (4) 防護用具は、同一患者の異なる身体部位のケアを行う際には交換する。
- (5) 防護用具は、患者ごとに交換する。(交換時も手指衛生を行う)
- (6) 防護用具を外す際は、汚染面に触れないように注意し脱ぐ。
- (7) 使用後の防護用具は全て、感染性廃棄物として廃棄する。
- (8) 防護用具を外した直後に手指衛生を行う。

### 3 手袋

- (1) 手袋が必要な場面
  - ① 採血や注射時など鋭利な器材を扱う時
  - ② 点滴抜去や吸引、排泄物の処理など湿性生体物質に接触する可能性がある時
  - ③ 包帯交換時など傷のある皮膚や覆っているガーゼに接触する可能性がある時
  - ④ 汚染器材を取り扱う時
- (2) 注意事項
  - ① 手袋は使用直前に装着する。手袋を装着したまま、環境やPCなどに触れない。
  - ② 同一患者でも微生物が高濃度に存在する部位に接触した後は、他の部位へ処置を移動する時には交換する。
  - ③ 処置毎の手袋交換が原則である。使用した手袋を装着したまま、非感染物や他の患者に接しない。
  - ④ 手袋を外した後は、必ず手指衛生を行う。

### 手袋（未滅菌）の着用方法



①片手で手袋を小範囲につまみ出す



②表面に触らず、親指の位置を確認する



③片手に装着する



④手袋装着した手で、もう片方の手袋を取り出す



⑤表面に触らず、親指の位置を確認し装着する



⑥手袋の中の空気を抜く

### 手袋（未滅菌）の脱ぎ方



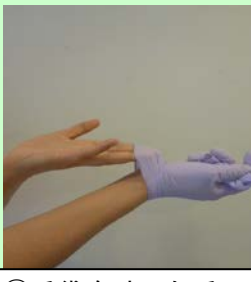
①手首の部分をつまんで、引きあげる。



②汚染された手袋の外側が内側になるように外していく



③中表に脱いだ手袋を片手に握る



④手袋を外した手で、もう片方の手袋の外側に触れないよう袖口から手を差しこむ



⑤そのまま引き上げる



⑥汚染面を中表にして脱ぐ

## 4 マスク（サージカルマスク）

### (1) マスクが必要な場面

- ① 血液・体液・排泄物等が飛散し、飛沫が発生する恐れがある処置やケアを行う場合
- ② 侵襲的処置を行う時に、ケア提供者の飛沫から患者の感受性の高い局所（創傷・中心静脈ライン挿入部）を保護するとき
- ③ 職員自身が咳・くしゃみ・鼻汁等の呼吸器症状を有する場合

### (2) 注意事項

- ① マスクは水や湿気により効力が減少するため、汚染したり濡れた場合は交換する。
- ② マスクは必要な場面で適切に使用し、それ以外の過度の使用は控える。

## 5 ビニールエプロン・プラスチックガウン

### (1) エプロン・ガウンが必要な場面

- ① 血液・体液・排泄物等のしぶきや飛沫により皮膚や衣類を汚染する可能性がある場合
- ② 抗がん剤ミキシング時、高レベル消毒薬の取扱い時（ガウン着用）

### (2) 注意事項

- ① 体幹のみの汚染の場合はエプロンを使用。体幹の他、上肢等の汚染が考えられる場合はガウンを選択する。
- ② エプロン・ガウンは1回ごとの使い捨て使用とする。

## 6 フェイスシールド・ゴーグル

### (1) フェイスシールド等が必要な場面

- ① 血液、体液、分泌物等が飛散し、顔面への飛沫が予想される場合
- ② 抗がん剤ミキシング時、高レベル消毒薬の取扱い時

### (2) 注意事項

- ① フェイスシールドつきマスクを使用する場合はその都度使い捨てる。
- ② ゴーグルは、シールド部分が明らかに汚染したらシールド部分を交換する。